

令和6年度小学校教科教育推進研修（国語科）研修成果物（指導について）

指 導 者 Bグループ 福山市立戸手小学校 福島 のぞみ
指導学年 第1学年2組 19名

1 単元名及び教材名

はたらくじどう車にかんしゃじょうをおくろう！
「じどう車くらべ」（光村図書「こくご 一下 ともだち」）

2 児童観

本学級の児童は、1学期に「つぼみ」の説明的な文章を通して、「問い」に対する「答え」の順序を考えながら内容の大体を捉えることを学習した。「問い」「答え」「説明（つぼみの開き方）」と文章が同じ構造になっていることを捉えさせるために、文章に線を引かせ、色分けをする活動を行った。文章の中の重要な語や文を考えて選び出し、色分けができている児童は7割、色分けに困っている児童は3割程度いた。文章の構造を理解できないことが要因であったと考える。その際、それぞれの花のつぼみの開く様子の動画を見せて、文章と対応させることで、文章の内容を理解させることができた。また、読むことの「考えの形成」を取り上げた学習はまだ行っていないため、文章に対する感想を書く際に自分の知識や体験と結び付けることに困難さを見せる児童が相当数いることが想定される。文章の内容を読む前に、それぞれの自動車に対する既有的知識や経験をしっかりと想起させ、文章のどの部分と結び付くのかを明確にさせながら学習を進める必要がある。

3 指導観

指導に当たっては、内容の理解をもとに、考えが形成できるように単元を構成する。

内容の精査・解釈については、文章が同じ構造になっていることを捉えさせるため、文章の色分けをしたり、それぞれの自動車の「しごと」と「つくり」をワークシートに書いて整理させたりする。「このしごとをするために、このようなつくりになっている。」と、二つの関係性を理解させる。

考えの形成については、文章の内容に入る前に、それぞれの自動車の知っていること（知識）や乗ったことがあること（体験）を話し合わせ、児童の言葉でまとめたものを自動車の挿絵と共に掲示していく。それぞれの自動車の「しごと」と「つくり」を読み取り、学習して分かったこと（解釈）を書かせていく。また、第三次では、自分が選んだ自動車に感謝状を書き、紹介する学習活動を仕組んでいく。感謝状のワークシートを、①自動車の「しごと」と「つくり」（文章の内容）②自分の体験（既有的知識）③学習して分かったこと（解釈）④自分の感想の順に構成し、自分の考えを整理できるように支援していく。

4 指導と評価の計画（全 10 時間）

次	時	学 習 内 容	評 価			
			知	思	主	評価規準・ <u>評価方法</u> 等
一	1・2	- 知っている自動車について出し合い、知識や経験を話し合わせる。 「じどう車くらべ」の題名から、自動車の何を比べるのか、内容を想像する。				
		問いの文や出てきた自動車を確かめ、文章全体の構成と、内容の大体を捉える。				
二	3・4・5	- それぞれの自動車の「しごと」と「つくり」を読み取り、ワークシートにまとめる。 - それぞれの自動車を比べて、共通点や相違点、事柄の順序について話し合う。 →三つの自動車を仲間分けするとどのようなになるかな。（共通点と相違点） →どうしてこの順序で書かれているのかな。（事柄の順序）		○		[思考・判断・表現] <u>ワークシート・仲間分けシート</u> ・「読むこと」において、文章の中の重要な語や文を考えて選び出している。
	6 (本時)	- 三つの自動車の中から、自分が選んだ自動車に感謝状を書く。 →これまでに自動車のしごとやつくりについてまとめたワークシートを見ながら、感謝状を作成する。 →自分の知識や経験、学習してさらに分かったこと、自動車に対しての感謝の気持ち(自分の思い)を入れて書く。		○		[思考・判断・表現] <u>感謝状(ワークシート)・発言</u> ・「読むこと」において、文章の内容と自分の体験を結び付けて感想をもっている。
三	7	感謝状を読み合い、三つの自動車のしごとやつくりの内容と 児童の知識や経験が繋がっているか確認する。			○	[主体的に学習に取り組む態度] <u>児童の様子</u> ・粘り強く、共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について考え、学習課題に沿って、分かったことや考えたことを文章にまとめようとしている。
	8・9	自分の調べたい自動車の「しごと」と「つくり」を図鑑や本の文から読み取り、ワークシートにまとめる。	○			[知識・技能] <u>ワークシート</u> ・事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。
	10	学習を振り返り、単元の学習を通して付いた力やこれからの学びに生かせることを考える。				

5 本時の学習

(1) 本時の目標

自分の選んだ自動車の「しごと」と「つくり」を表す重要な語や文に着目をしながら、自分の体験と結び付けて感想をもつことができる。

(2) 学習の展開

学習活動	○指導上の留意点 □主な発問 ・予想される児童の反応 ◆「努力を要する」状況と判断した児童への指導の手立て	評価規準 (評価方法)
1. 前時の学習内容を想起する。	□自分の調べた自動車にはどのようなしごとやつくりがありましたか。 ・はしご車は、高いところの火を消したり、にげおくれた人を助け出したりするしごとをしているよ。 ・そのために、長く伸びるはしごがついているよ。 ○既習内容をまとめたワークシート（自動車図鑑）を活用しながら、それぞれの「しごと」と「つくり」を確認できるようにする。	
2. 本時の学習内容を確認する。	㊦ みんなのために はたらいて いる じどう車に かんしゃじょうを かこう。	
3. 自分の選んだ自動車に感謝状を書く。	○感謝状の書き方の例を示し、児童が感想を書く際に参考にすることができるようにする。 ◆長い文章を書くのが難しい児童には、キーワードとなる短い言葉を埋められるように別の型の感謝状（ワークシート）を用意しておく。 ◆自分の体験などを伝え合い、グループや全体で共有する場を設ける。	[思考・判断・表現] 感謝状（ワークシート）・発言 ・「読むこと」において、文章の内容と自分の体験を結び付けて感想をもっている。
	かんしゃじょう バスの あなたは、たくさんのひとをのせてはこぶしごとを しています。 そのために ざせきがひろくつくってあります。 わたしは、 しゃかいけんがくにいったときに、一年生ぜんいんがのれるぐらいひろくて、びっくりしました。 つうろがわにも、おりたたみのいすがついて いることも、たくさんのひとをのせるため なんだなおもいました。 これからも、 たくさんのひとをのせて、いろいろなひと はこんでくださいね。	
4. 学習の振り返りをする。	・どの自動車も仕事のためにくふうしたつくりになっていることが分かったよ。 ・他の自動車の仕事とつくりも調べてみたいな。	

(3) 板書計画

じどう車くらべ ④ じどう車にかんしゃのきもち ③ 学しゅうして、もっとわかったこと ② じぶんのたいけん ① じどう車の「しごと」と「つくり」 かんしゃじょうのかきかた みんなのために はたらいている じどう車に かんしゃじょうを かこう。 ④め	バス どの あなたは、たくさんひとをのせてはこぶ しごとをしています。 そのために させきがひろくつくつてあります。 わたしは、 しゃかいけんがくにいったときに、一年生ぜんい んがのれるぐらいひろくて、びつくりしました。 つうろがわにも、おりたたみのいすがついている ことも、たくさんひとをのせるためなんだなあ とおもいました。 これからも、 たくさんひとをのせて、いろいろなひとをはこ んでくださいね。
--	--

6 指導の実際

(1) 指導上の工夫

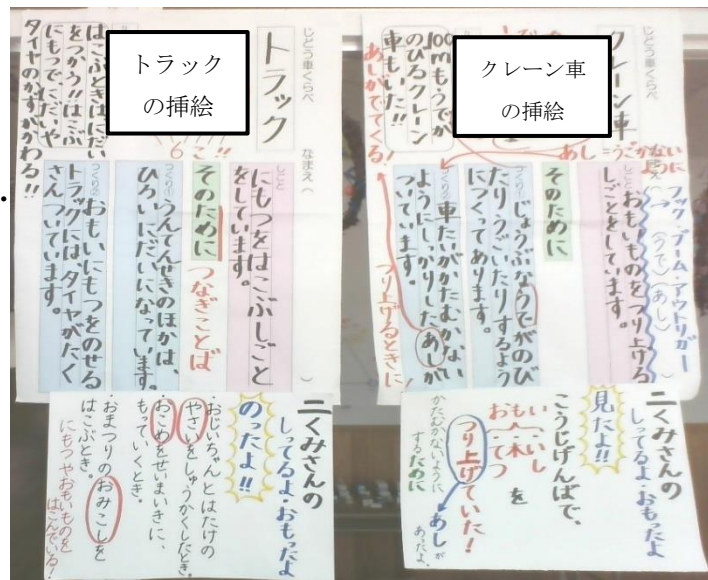
① 自動車に興味をもたせるための工夫

ペーパークラフトの本でいろいろな自動車を児童と一緒に作り、展示した。子どもたちが実際に作る中で、「はしご車のはしごが伸びる!」「クレーン車にもはしご車にもあしがある。」など、自動車のつくり気付くことができた。どんどん自動車が増えていくにつれて、同じつくりをしている自動車ごとに並び替えたり、自動車一つ一つの仕事を書かれたプレートを読んだりするなど、自動車に興味をもつことができた。



② 教室掲示の工夫

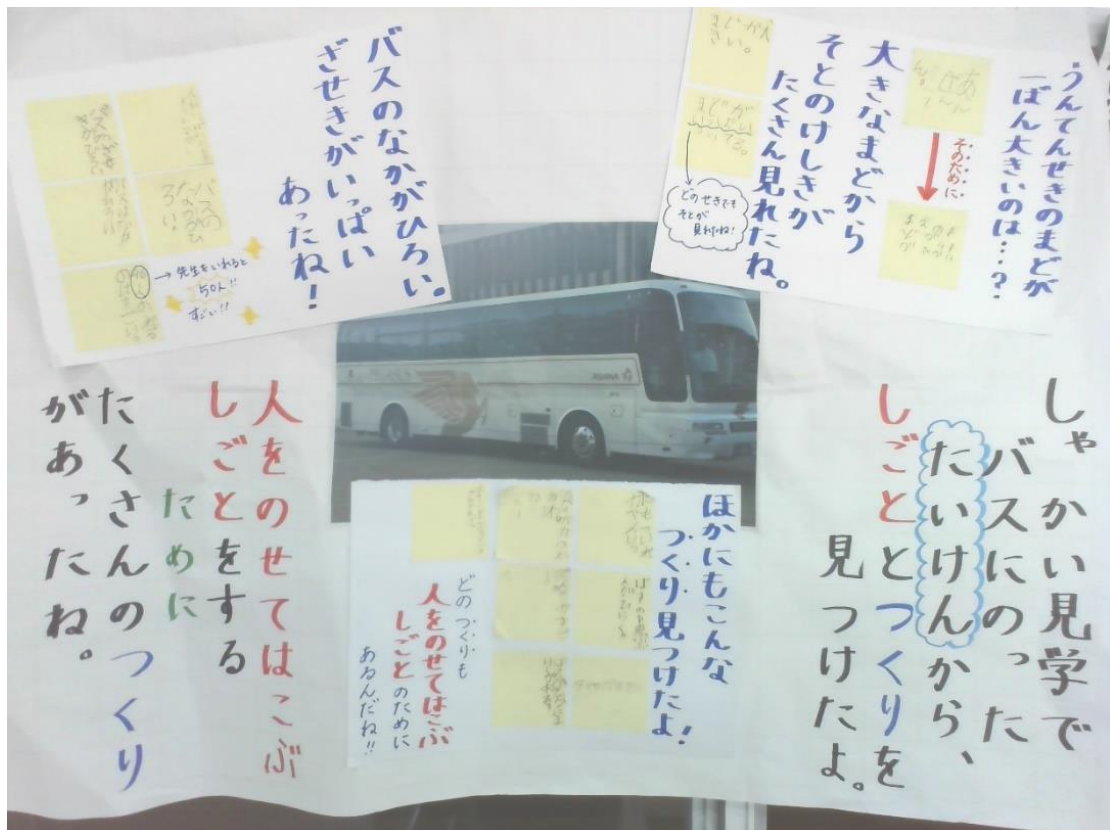
教材文の内容理解に入る前に、それぞれの自動車の知っていることや乗ったことがあることなどを話し合わせる、「2組さんの知ってるよ思ったよ」コーナーの時間を設け、児童の既存の知識や経験をその都度掲示した。掲示しておくことで、自分が知っていることと教材文の内容を比較したり、それぞれの自動車のしごとやつくりが、なぜそのようなになっているのか、理解を深めたりすることができた。



(2) 児童のつまずきと実際に講じた手立ての具体

＜考えを形成する際のつまずき＞

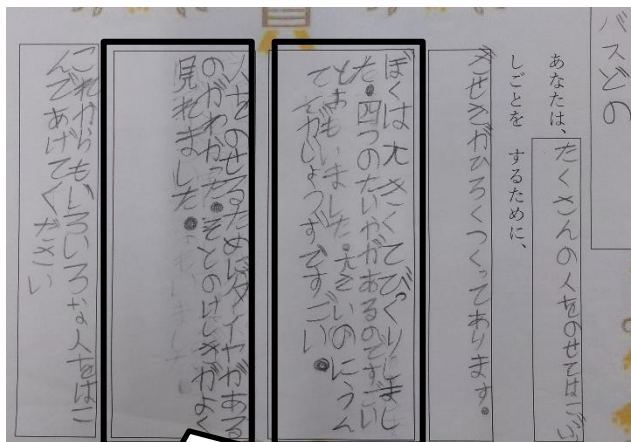
読むことの「考えの形成」を取り上げた学習が初めてであったため、児童全員が体験した社会見学で乗った実際のバスの写真を提示して、付箋に「見て思ったこと」「乗って思ったこと」（体験）を書きながらグループで話し合わせ、バスの「しごと」と「つくり」を考え出していった。児童から、「先生たちも入れたらバスに50人も乗れたよね。」「バスがとても長くてたくさん席があったね。」などのつぶやきが聞こえ始め、「これは、つくりかな?」と付箋を分け始める児童の姿があった。特に運転席の窓が一番大きいことに気付いた児童は、「自分たちの席の近くの大きな窓は景色がよく見えるためだけど、運転席の窓が大きいのは運転手さんが周りをよく見て安全に運転するためだ。」と児童同士の会話の中から、「しごと」も見付け出すことができた。



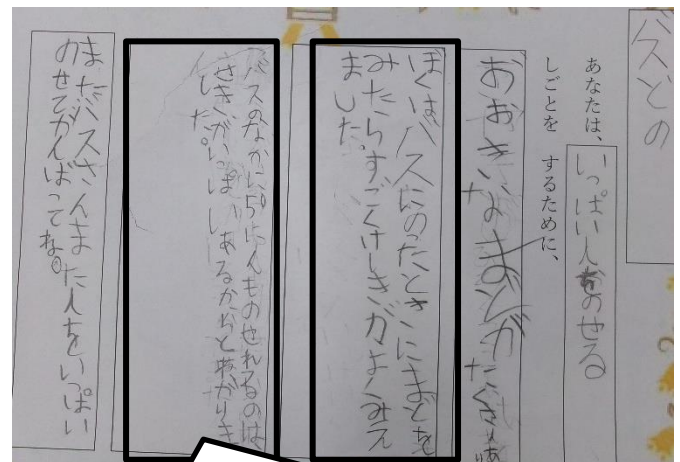
7 評価の実際

(1) 評価の具体

「十分満足できる」状況 (A)



バスに大きなタイヤがあったのは、人をたくさん乗せるためだということが分かりました。

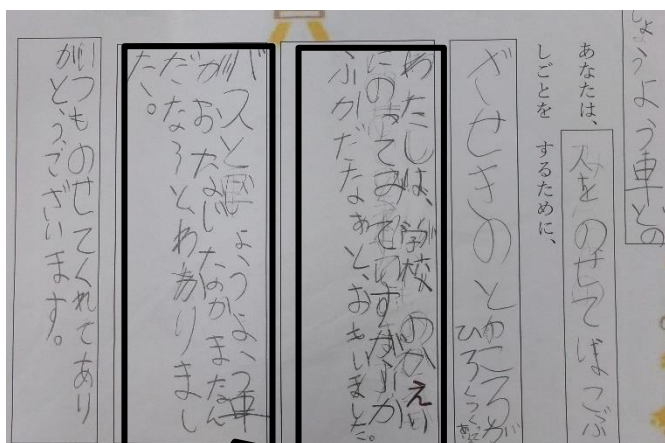


バスの中に 50 人乗れたのは、座席がいっぱいあるからだと分かりました。

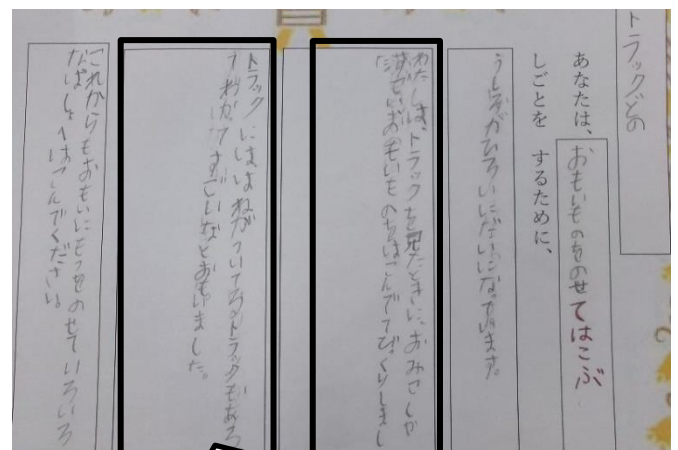
感謝状のワークシートに、自分の体験（既知の知識）と学習して分かったこと（解釈）の繋がりを、自分で考えて書いている児童。

文章の内容と自分の体験を比較した上で自分の感想をもっている児童。

「おおむね満足できる」状況 (B)



バスと乗用車が同じ仲間ということが分かりました。



トラックの荷台が羽みたいに開くものがあったてすごいなあと思いました。

感謝状のワークシートに、自分の体験（既知の知識）を書いているが、学習して分かったこと（解釈）の部分と十分に繋がらない児童。

(2) 児童の評価

「十分満足できる」状況 (A)

4 人

「おおむね満足できる」状況 (B)

10 人

「努力を要する」状況 (C)

5 人

8 成果と課題

(1) 成果

ペーパークラフトの本で児童と一緒にいろいろな自動車を作ること、様々な自動車に興味を持ち、児童自身がそれぞれの自動車の「つくり」に気付くことができた。また、自分の知識や経験を友達と話し合うことで、本文の内容がより理解でき、多くの児童が自動車の「しごと」や「つくり」と自分の知識や経験を結び付けて考えることができた。そして、バスの中に 50 人も乗れたという経験から、人をはこぶ「しごと」と、座席がたくさんあるという「つくり」を結び付けて、「しごと」のために「つくり」があるという関係を解釈することができた児童もいた。

(2) 課題

自分の選んだ自動車の「しごと」や「つくり」と自分の知識や経験を結び付けることはできたが、文章の内容と自分の経験を比較したうえで、自分の感想をもつことができていた児童は 4 人程度だった。ワークシートの「学習してもっと分かったこと（解釈）」の項目に、自動車の動画を見てすごいと思ったところや驚いたところを書いている児童が多く、文章を読んでの感想に生かされていなかった。「すごい。」「驚いた。」など簡単な解釈だけで終わらせるのではなく、動画などで分かった自動車の「つくり」が、なぜそのような「つくり」になっているのか再度問い直し、「しごと」と結び付ける必要があった。

また、考えを形成する際のワークシートを「感謝状」とし、それぞれの自動車に感謝の気持ちを書くとしていたため、ほとんどの児童が同じ感想になってしまった。児童が楽しんで学習できるようにと設定したものであったが、考えを形成させるという第一義を十分に達成できなかったと感じたことから、今後ワークシートを改善したい。

(3) 今後に向けて

今回、初めて「読むこと」における「考えの形成」の力を身に付けさせる単元の開発に取り組んだが、「書くこと」に支援が必要な児童も、自分のことを話したり、友達の知識や経験を聞いたりすることで、自分の思いをもつことができた。今後、様々な教材に出合う中で、感想をもつ際、今回学習した、文章の内容と自分の知識や経験とを結び付けるという感想のもち方ができるよう、繰り返し取り組んでいきたい。

付録 選書リスト

書名	著者名	出版社名
小学館の図鑑 NEOのクラフトぶっく りったい 乗りもの館	神谷 正徳	小学館
小学館の図鑑 NEOのクラフトぶっく 新りったい 乗りもの館	神谷 正徳	小学館
小学館の図鑑 NEOのクラフトぶっく りったい 乗りもの館 パート3	神谷 正徳	小学館
光村の国語 やってみよう！楽しい ずかんづくり③ 「じどう車くらべ」ずかんをつくろう	高木 まさき（監修） 青山 由紀・松永 立志 （編集）	光村教育図書
はたらくじどう車 しごととつくり① ブルドーザー ショベルカー	小峰書店編集部	小峰書店
はたらくじどう車 しごととつくり② しょうぼう車 きゅうきゅう車	小峰書店編集部	小峰書店
はたらくじどう車 しごととつくり③ パトカー 白バイ	小峰書店編集部	小峰書店
はたらくじどう車 しごととつくり④ バス トラック	小峰書店編集部	小峰書店
はたらくじどう車 しごととつくり⑤ ごみしゅうしゅう車 ゆうびん車	小峰書店編集部	小峰書店
はたらくじどう車 しごととつくり⑥ じょうよう車	小峰書店編集部	小峰書店